ジョセフ・スミスの後に続く人

預言者ジョセフ・スミスは，世を去る前に，十二使徒定員会に以下のように教えました。

「兄弟の皆さん，……何か重大なことが起ころうとしています。敵がわたしの命を奪うのかもしれません。そうなったら，わたしが持っている鍵と力は，皆さんに授けられていなければ地上から失われてしまいます。しかしそれらを皆さんの頭上に置くことさえできたら，神が許されるままに，わたしは残忍な者たちの手にかかって犠牲となりましょう。わたしは，自分の業が終わり，この時満ちる神権時代に神の王国を築くための基が据えられたことを知り，喜びと満足を覚えてこの世を去ることができます。

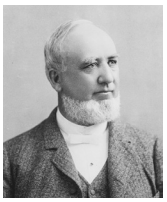
今から後，皆さんが自分たちの後継者を任命するまで，この教会を導く責任は皆さん，すなわち十二使徒の肩に置かれなければなりません。」（『歴代大管長の教え－ジョセフ・スミス』〔2007年〕532―533）

また，大管長会は十二使徒定員会の上にある唯一の集まりであり，預言者が亡くなると大管長会は解散するとも教えました（see History, 1838–1856 [Manuscript History of the Church], volume B-1, 691, josephsmithpapers.org）。

- 学んだ事柄から，先ほどの3つの主張に対応するためにどのようなことが助けになるでしょうか。
- 預言者が亡くなったとき，御自分の教会の指導者を絶やさないために，主はどのような規範を定められましたか。

ブリガム・ヤングが大規模な集会で聖徒たちに語ったとき，多くの人が奇跡的な経験を記録し，聖霊の確認を得ました。

後に大管長会で奉仕したジョージ・Q・キャノン管長（1827－1901年）は次のように述べています。



「ブリガム・ヤングは……立ち上がると，人々に向けて語りました。……その場にいた人々は，そこで受けた感銘を決して忘れられないでしょう！ジョセフが死からよみがえり，再び皆の前で演説したとしても，あの集会にいた多くの人にこれ以上の衝撃を与えることはできなかったでしょう。その声はジョセフそのものでした。聞こえてきたのがジョセフの声であっただけでなく，人々の目には，ジョセフ自身が目の前に立っているかのように映ったのです。その日会衆の面前で起こった出来事よりもすばらしく奇跡的な事柄を耳にしたことはありません。主は御自分の民に，彼らを導くために主がお選びになった人物について，疑う余地のない証を与えてくださったのです。人々は，肉体の目と耳でこの出来事を目の当たりにし，耳にしました。そうして，自分たちを確信へと導く神の力を伴う言葉が心に語られ，御霊と大きな喜びに満たされたのです。意気消沈することもありました。心に疑いや不安を抱いた人もいたかもしれません。しかし，ジョセフの代わりに人々の間で行動するために必要な権能を主から授かった人がいるということが，今やすべての人に明らかとなったのです。」（George Q. Cannon, “Joseph Smith, the Prophet,” *Juvenile Instructor*, Oct. 1870, 174–75）

エミリー・スミス・ホイトは，ブリガム・ヤングが聖徒たちに語ったときにその場にいた会員で，次のように記録しています。

「その論法や表情，声のすべてが，わたしの全身全霊を奮い立たせました。わたしは確かにこの目で，殺されたジョセフの遺体を見ていました。自分の手で，かつての立派な額に触れ，死者の氷のような冷たさを感じたのです。ジョセフが死んだことは分かっていました。にもかかわらず，わたしは何度もはっとして，ジョセフ本人ではないのかと思わず説教台に目をやりました。語っているのはジョセフではなくブリガム・ヤングでした。ブリガムが聖徒たちのために諸事を管理する道理に疑いを抱く人がいるとすれば，言えるのはこれだけです。神の御霊に頼り，自分自身で確信を得てください。主は一人一人に教えてくださるでしょう。」（Emily Smith Hoyt, in Lynne W. Jorgensen, “The Mantle of the Prophet Joseph Passes to Brother Brigham: A Collective Spiritual Witness,” *BYU Studies*, vol. 36, no. 4 [1996–97], 164）

- もしそこにいたら，あなたはこの経験からどのような影響を受けたと思いますか。
- モロナイ10：5は，あなたが研究したこととどのように関連しているでしょうか。

© 2024 by Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. PD80007812_300_472-1